

遠隔外来のすすめ

忙しい外来の中で専門外の内容について、モヤモヤを感じながら診療している場面はないでしょうか？

例えば、皮膚疾患の治療や、消化器内視鏡検査後の方針決定、整形外科疾患への対応などです。

また、以前に専門医が開始した処方を漫然と継続していたりしないでしょうか？

遠隔外来を利用することで、患者さんは和歌山医大に来るより少ない待ち時間で診察を受けることができ、通院負担も軽減されます。

複数の診療科・部署での診療を同日に受けることも可能です。

普段の臨床現場で感じるモヤモヤについて、遠隔外来でコンサルテーションしてみませんか？

→次 好事例のご紹介

和歌山県立医科大学地域医療支援センター

TEL : 073-441-0845 FAX : 073-441-0846 E-mail : enkaku@cmsc.jp

お問い合わせ時間：月曜日から金曜日 8時45分から17時30分まで(土日祝日を除く)



事例① 皮膚科 80代女性

＜病名＞ 水疱性類天疱瘡

＜患者背景＞ 新規の水疱を認めたため、遠隔外来利用

＜コンサルテーションの内容＞

①類天疱瘡の投薬内容の変更 ②好酸球・抗BP180抗体の推移の確認



専門医による
遠隔外来実施



高精細カメラを使用することで、遠隔外来においても皮膚所見を鮮明に観察できます！

- 専門医による投薬の助言に基づく適切な診療により、水疱は改善した。
- 合計5回の継続的なフォローを実施した。
- 寝たきり患者はベッドのまま診察。患者を入れ替え2名続けて効率的に診療した。

事例② 整形外科 70代女性

＜主訴＞ 左肩関節痛

＜患者背景＞ 診療所でのステロイド局所注射で疼痛改善なし、肩腱板断裂の疑い

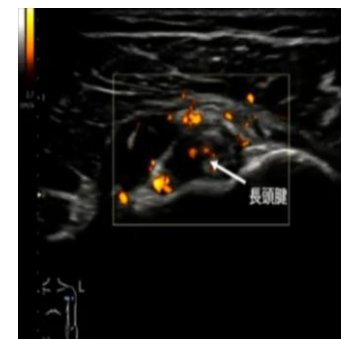
＜コンサルテーションの内容＞

- ①肩腱板断裂は否定的 ②エコーから上腕二頭筋長頭腱炎＋凍結肩の診断
- ③肩関節授動術の適応と判断

身体所見
の取り方
を指導



専門医による
遠隔外来実施



診療所パソコンから
エコー画像・診察動
画を共有
(各設置医療機関か
らHDMI出力可)

- 診療所医師が撮像したエコー画像を専門医と共有し、確定診断につながった。
- 高次医療機関（紀北分院）への受診につながった。

事例③ 消化器内科・栄養指導 60代男性

はじめての遠隔外来



よく分かったよー
こんなんしてくれてありがとうねー